1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

4						
	事業所番号	3570200703				
法人名 医療法人 仁心会						
	事業所名	業所名 グループホーム あっぷる				
所在地 山口県宇部市昭和町1丁目9-3						
	自己評価作成日	平成22年11月28日	評価結果市町受理日	平成23年9月27日		

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

63 な支援により、安心して暮らせている

評価機関名	関名 特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク				
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内				
訪問調査日 平成22年12月21日					

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人母体が医療機関であり、24時間の医療連携がとられ、訪問看護師の派遣もあり健康管理面ではご利用者やご家族の安心、安全が守られています。

1階に託児所、近所に幼稚園があり、散歩中に交流を持つことができます。隣接の公園や寺院、お地蔵 様への散歩や花見などが楽しめ、環境に恵まれています

地域との交流の中で、その人らしさを大切にし、優しさとぬくもりのあるケアを提供できるよう、ご利用者と接するスタッフが楽しい雰囲気を作り、ご利用者が笑顔で過ごせる時間が長くなるよう支援しています。人と人としてふれあい、一緒に生活していく中でなじみの関係・信頼関係を築き、"あなたが居てよかった" "あっぷるが好きよ"と言ってもらえるグループホームあっぷるでいたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の状態を把握されている訪問看護ステーションの看護師を講師に招いて、トイレの誘導のポイントや腹部マッサージの方法、腹圧のかかる体位を学ばれ、職員の意識を高められ、排泄の自立に向けた支援をしておられ、ほとんどの利用者がトイレでの排泄を自立して行っておられます。同一法人の医療機関や訪問看護ステーションが近くにあり、医療連携体制のもとで、主治医や看護師、家族等との連携を図りながら、適切な医療が受けられるように支援されており、利用者や家族の安心につながっています。

V.	Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目 取 り 組 ↓該当するものにC		取り組みの成果 するものに〇印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の O 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 〇 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが			_	

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

自	外頭目		自己評価	外部評価	T
己	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .3	里念(こ基づく運営			
1		〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	ムに掲示したり、名札や日報のバインダーの 裏に記載することで職員間の共有を図り、	地域密着型サービスの意義をふまえた事業 所独自の理念をつくり、玄関、スタッフルーム に掲示し、名札の裏や日報に記載して、ミー ティング等で共有に努め、実践に取り組んで いる。	
2		〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	自治会に加入し回覧板を回したり、校区の 行事(納涼祭・区民芸能祭・餅つき等)や小学 校の行事等への参加、地域の落ち葉清掃、 ボランティアの来訪を受け入れている。また、 近隣の小学生が遊びに来るなど、地域の 人々との交流に努力している。	自治会に加入し、地域の納涼祭や文化祭、 小学校のバザーに利用者と一緒に参加している。ボランティア(絵手紙、朗読の会、カラオケ、フラダンス等)の来訪や校区便りが届けられたり、回覧板を回したり、学校行事として小学生が来訪し漫才などを披露するなど、地域の人達と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	校区の自主防災の避難場所として利用して 頂ける事をお伝えしてある。また、自治会長 様に独居老人の方にも立ち寄ってもらえるよ う、お声かけをお願いしている。		
4		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が職員に評価の意義を説明し、職員 全員で自己評価を記入し、ミーティングで話 し合い、管理者がまとめている。これはケアに ついて振り返りや見直しの機会となり、外部 評価結果はミーティングで話し合い、1年かけ て改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、管理者は自己評価書を全職員に配布し職員会議で話し合って作成している。自己評価することでケアの目標を再確認し、外部評価の結果も検討し、具体的な改善に取り組んでいる。	
5		〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価の内容、外部評価の結果を運営推進会議で報告し、参加メンバーと話し合いを行い意見をサービスに活かすようにしている。また、他のグループホームの施設長や管理者、自治会長、民生委員に会議のメンバーに入って頂き、意見を取り入れさせて頂いている。	自治会長、民生委員、市介護保険課職員、 家族4~5名、管理者、職員等で2ヶ月に1回 開催し、活動報告、家族会の要望、災害時の 対応等について意見交換をしてサービスに	
6		〇市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる		日頃から積極的に出向いて市の担当者と連携を図り、介護保険に関する助言を受けて、 サービスの質の向上に取り組んでいる。	

自	外	項目	自己評価	外部評価	ш Т
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		一地して抑制や拘束のないがりに取り組んでいる。 る。日中は玄関に鍵をかけないで見守りの支 「短にない、効果な変物」ない表して実り	
8		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、 防止に努めている	高齢者虐待防止関連法や対応の仕方について市の職員に来て頂き職場研修で学んだ上で、虐待防止に努めている。また、資料をいつでも閲覧できるようスタッフルームに置き、遵守し未然防止できるよう常に意識している。		
9		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	以前、活用しておられた方がいらっしゃった ので理解しているが、現在は必要性のあるご 利用者がいらっしゃらないので職員間の話し 合いは行っていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約する際は、契約書・重要事項説明書を一つ一つ説明したうえで、疑問点や不安な点をお聞きし、将来の事も含め、重度化や看取りについての対応等できること、できないこともご説明し同意を得るようにしている。また、契約の改訂をする際は、家族会等で詳しくご説明し、納得した上で同意して頂いた。		
11		〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には、折に触れて会話していく中で、意見・不満・苦情をお尋ねし、言葉や態度からその思いを察する努力をしている。ご家族には運営推進会議や家族会などの来訪時に、要望等がないか聞くように心がけている。意見箱を設置したり、相談や苦情を受け付ける外部機関を玄関に掲示し紹介したり、第三者委員を設けたりして意見を出しやすいような配慮をしている。苦情処理マニュアルも準備している。	面会時、電話、運営推進会議、意見箱などで 家族等の意見や要望を聞く機会を設けて運 営に反映させている。苦情相談窓口や担当 者、第三者委員、外部機関を明示し苦情処 理手続きを定めている。	

自	外	項目	自己評価	外部評価	ш
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際にスタッフに意見を聞き、管理者が代表で運営者に伝え、反映してもらえるよう呼びかけている。新しいご利用者の受け入れ時は、全職員で検討し決定している。また、職員の配置異動もなく馴染みの関係を保つ事を重視できている。	管理者はミーティング等で出た職員の意見を 聞いて、運営に反映させるよう努めている。	
13		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	日報に勤務を記録し、毎朝、運営者にFAXし 勤務状況を把握してもらっている。セミナー パークで行なわれる研修や同系列のGHや 小規模多機能型施設との合同研修を行い交 流を図っている。		
14		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを進 めている	報告書を作成してもらい、全職員が回覧し、情報を共有している。2ヶ月に1度、訪問看護	外部研修は勤務の一環として参加の機会を 提供し、復命をして全職員で共有している。 法人内研修への参加、事業所独自の勉強会 を実施し、資格習得の支援など職員を育てる 取り組みをしている。	
15		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく 取り組みをしている	年に1回、同系列の施設との合同の勉強会を 実施し交流も図っている。また、グループホーム連絡会の研修に参加したり、研修などを通して知り合った他のグループホームへ見学に行ったり、情報交換を行い、参考にするようにしている。		
II . 2	安心 と	∠信頼に向けた関係づくりと支援 ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に1度、来訪して頂き、面談にて しっかりとご利用者の話をお聴きし、思いを受 けとめるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入所申し込みを書きに来られた際には、ご家族の要望や思いをお聴きするようにしている。入所に至るまでの間にも電話等でよく話し合い、思いを受け止めるようにしている。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	西
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	初めからサービスを絞り込むのではなく、あらゆるサービスをご説明する等して対応している。必要に応じて、他のサービス機関も紹介したりしている。また、これまでの経緯やご家族、ご本人の思いを傾聴するように努めている。		
19		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	らっきょうや梅、しその漬け方等を教えて頂いたり、日常生活の中においても生活の知恵を習い、一方的な関係になることがないよう、 共に支えあえる関係づくりに努めている。		
20		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご利用者の日常の様子、健康状態をこまめにお伝えし、情報交換している。ご家族も苑外レクリエーションの際はお誘いしたりし、一緒に喜怒哀楽を共にできるように心がけている。		
21		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所近辺の理容院を利用したり、公園、お 地蔵様にお参りしたり、地域の人々との交流 を図る機会を作り、馴染みの場所になるよう に支援している。また、地域に暮らす馴染み の知人とも自治会の行事の際等にふれあっ て頂いている。	馴染みの美容院、お地蔵様、外食、スーパー、花見、地域の祭りなどに出かけて、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席などを決める際はご利用者同士の関係も 考慮し、職員が調整役となって支援している。 ご利用者が孤立してしまわないよう心身の状態や気分など注意深く見守り、ご利用者同士 も助け合いの中で日々の支え合いができる よう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が修了された方と疎遠になってしまっている。転居される際は、習慣や好み等の情報を提供し、移り替えのダメージを最小限に食い止められるよう努めている。		

自	外	項 目	自己評価	外部評価	I
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	(11)	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人一人の個性を尊重するようにしている。 困難な場合は手を取り、目を見てゆっくりと意 向の把握をするよう努めている。	日々の関わりの中で利用者のふと話された言葉を「介護記録」に記入しているが、積極的に利用者の思いや意向の把握に努めているといはいえない。	・思いや意向の把握の工夫と検討
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りやご家族、入所前の関係者などからとったアセスメントや情報を職員間で 共有している。利用開始後も折に触れ、ご本 人やご家族にどんな生活をしていたか聞い たりし把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	過ごし方や心身状態をしっかり観察し、総合的に把握した上で、食器洗い、おぼん拭き、洗濯干し・たたみ等でできる力を発揮して頂けるよう支援している。また、新たな"できる力"を発見できるよう努めるとともに、みつかった"できる力"は職員間で共有し、活かして頂けるよう支援している。		
27	, ,	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している		ケアカンファレンスを毎月1回開催し、本人や家族の希望、医師、看護師、職員の意見を反映した介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングをし、全職員で検討して見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにあがっている事柄に関する情報を重点的に記録するように心がけ、介護計画に活かせるように努めている。個別にファイルを用意し、食事量・水分量・排泄状況・日々の暮らしの様子や言動や想い、エピソード等を必要に応じて記録している。また、勤務開始前に業務日誌の確認をするよう義務づけており、全職員に目を通してもらい情報を共有している。		

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制、在宅総合診療を活かし24時間安心して暮らして頂けるように支援している。また、希望に応じ、通院や理美容院への送迎、入院時の洗濯の代行などの支援は柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	呼びかけをし、消防の方や自治会長、民生委員にも運営推進会議に参加して頂いたりし普段から連携を取るようにしている。また、校区の小学生や先生に訪問してもらい、歌や踊り、ゲーム等でご利用者を楽しませて頂いている。		
31		〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	はないかかりつけ医への支診布室をされている方がいるため 情報のやり取りをご家族	かかりつけ医の希望を聞いている。協力医療機関から毎月内科医師や歯科医師の往診があり、付き添いもしている。眼科等の受診は家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援している。	
32		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	訪問看護師に月2回来訪してもらい、健康管理を行ってもらっている。体調不良時などには気軽に相談し、指示を頂いたり、状況によっては来訪していただいている。また、看護資格を持ったスタッフが3名いるので、気軽に相談できている。		
33		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている	入院された際は、職員がお見舞いに行き、ご本人に安心していただけるよう支援している。 また、医療関係者やご家族と情報交換したり 相談を行っている。		
34		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい る	が変化した場合はその都度、ご本人やご家 族と話し合っている。支援していく中で、不	重度化や終末期に向けた事業所の方針を家族に説明し同意を得ている。状況が変化した場合は、早い段階から家族、主治医、職員と話し合い、出来る限り家族の要望に応えるよう努めている。	

自己	外	項目	自己評価	外部評価	5
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		〇事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとり の状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急 変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手 当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を 身につけている。	事故報告書やひやりはっとは職員全員に回覧し、情報を共有し、再発防止と事故を未然に防ぐように努めている。訪問看護師をお呼びし、意識消失時の対応についてマニュアルに基づいて実技訓練を行ったり、消防署の協力を得て普通救命講習を職員が受けたりし、緊急時に対応できるよう訓練している。また、緊急時に協力医療機関へ安全かつ迅速に搬送できる体制を整えている。	ヒヤリはっと報告書や事故報告書に記入して 検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止 に努めている。初期対応や応急手当の訓練 を定期的に行い、実践力を身につけている。	
		〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につけると ともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災時の夜間想定の避難訓練・避難経路の確認を消防署の協力を得て、行っている。自治会長様は緊急通報装置に自宅の電話番号を登録させてくださったり、避難訓練の様子を見学してくださったりし、協力体制があり自治会にも呼び掛けてくださっている。火災、風水害、地震時用ののマニュアルがある。		
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つける事がないように言葉かけ や対応に注意している。また、職員勉強会を 行い、ご利用者のプライバシーに関する事を 他者に話さないよう徹底している。記録物等 は事務所の所定場所に保管して個人情報 漏洩防止に努めている。	入浴、排泄介助等のプライバシーのマニュアルを作成し、勉強会を実施して、職員は誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をするよう取り組んでいる。不適切な言葉や対応が見られた場合は管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	ご利用者に自己決定してもらえるよう、複数 の選択肢を用意したレクリエーションやお誕 生日の食事メニュー等様々な場面で、ご自身 で選んだり決めて頂けるよう支援している。ま た、職員側で決定したり、押しつけたりしない よう心がけている。		
39		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活としての1日の流れはほぼ決まっているが、ご利用者のその時の体調や気分等に配慮しながらご本人の気持ちを尊重し、ご本人のペースで生活して頂けるよう、できるだける個別性のある支援を行うようにしている。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めて頂いているが、自己決定がしにくいご利用者には職員も一緒に考えながら提案し選択して頂いている。行事の時には、いつもよりおしゃれな装いで参加して頂けるよう支援している。また、行きつけの理容室ではご本人の希望に合わせたカット、毛染め、お化粧をしてもらえ、ご利用者にとても喜んで頂いている。衣服等を購入する際は、ご本人に選んで頂くようにしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	の食欲を高めるよう盛り付け等に配慮してい	で、体調や季即行事に合わせたメニューや外食を取り入れて、食事が楽しみなものになるよう支援している。利用者と一緒に調理、盛り付け、片付け、食器洗いなどをしている。職員も同じ食事を食べながら食事を楽しむことので	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日、業務日誌と介護 記録に記入し、職員全員が確認するようにし ている。食事量・水分摂取量が少ない時には ご本人の状態や嗜好に合わせた食べ物・飲 み物を個別に提供し、十分な栄養や水分確 保が出来るように支援している。また、ご利用 者の嗜好を介護記録に記入し職員は把握に 努めている。		
43		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食後、歯磨き・義歯洗浄・うがいなど個別に声かけしご本人のお手入れを見守った後、職員が不快な箇所をお聞きしたりしながら全体を確認している。ご利用者の力量にあわせ必要な部分を介助し、義歯は週2回、夕食後、義歯洗浄剤で消毒し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らす為に、 排泄記録表を作成し、1人ひとりの排泄パ ターンを把握した上でトイレ誘導したり、行動 など観察し、ご利用者からのサインを見逃さ ないようにしている。また、なるべくトイレで自 力にて排泄して頂けるように、腹部マッサー ジを行ったり水分摂取量の管理に努めてい る。使用するパッドや紙パンツについて状態 にあわせて随時、見直しをしている。	排泄記録表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じたトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。ほとんどの利用者がトイレでの排泄を自立して行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	水分補給をしっかり行い、毎日排便チェックを行っている。体操、散歩などで体を動かして頂き、一人ひとりの状態にあわせ、トイレ同行時に腹部マッサージを行ったり、力んでもらうよう声かけしたりして、自然排便を促すようにしている。自然排便が難しいご利用者には緩下剤を医師の指示のもと状態にあわせて調節しながら服用して頂いている。		
46		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をして いる	汚染時などは随時、シャワー浴を行なっている。入浴を嫌がられるご利用者には、言葉か	入浴は週5~6回、14時30分から18時頃まで可能で、入浴をしたくない利用者には声かけや対応の工夫をしている。柚子湯、みかん湯、菖蒲湯などで入浴が楽しめるように工夫	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの睡眠パターンを把握し、居室の明かり、温度、生活習慣等を個別に支援している。希望に応じ、食後30分は臥床をお勧めしたり、疲れが見受けられるご利用者には休息をとっていただけるよう配慮するよう心がけている。また、1日の生活リズム作りをしても夜間眠れないご利用者はご家族とも相談しながら専門医に受診している。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬は、一人ひとりの薬箱があり1回分ずつ管理者が責任を持って、分けて入れている。薬箱のふたに薬名、目的や用法・用量・副作用について記載されている紙を貼っている。ご利用者の服用薬をまとめた薬ファイルがあり、職員が内容を把握するようにしている。服薬時は、確実に服用していただけたか見届けるよう努めている。また、ご利用者の状態や経過に変化があれば医師に報告し指示を仰ぐようにしている。		
		○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりの生活歴や好みに合わせ、掃除やお茶入れ、調理、食器洗い、洗濯干し等のお手伝いをお願いし活躍して頂いている。また、お花見やお正月、誕生日会などの催し物がある際は、嗜好品をメニューに取り入れたり、お酒を振舞ったりしている。おやつのメニューは、ご利用者の嗜好品を取り入れるようにしている。	絵手紙教室、歌、貼り絵、ぬり絵、ゲーム、四季の花見、ボランテイアや小学生との交流、ドライブ、外食、買い物、しそジュース作り、梅ジュース作り、食事の準備など、楽しみごとや活躍できる場面を沢山作って支援している。	
50	(22)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日には買い物に出かけるようにし、月1~2回程度は苑外レクリエーション、外食等で出かけている。地域の行事にも積極的に参加し、天気と相談しながら随時、公園の花壇の水やりに行ったり、隣の施設のお地蔵様にお参りしたり、短時間でも戸外に出る機会を作るようにし、散歩に出かけ楽しい時間を提供できるように心がけている。日常会話の中でご利用者が「~に行ってみたいね」と言われた所に苑外レクリエーションなどで行くようにしている。普段行けないような場所への外出支援はご家族にも協力を頂き、支援している。	買い物、外食、四季の花見、花火大会、盆踊り大会、どんど焼き、初詣、節分祭、公園花壇の水やり、地蔵祭りなど、本人の希望にそって外出の支援をしている。墓参り等は家族の協力を得ながら外出の支援をしている。	
51		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	ご利用者の希望や有する力を考慮し、ご本人やご家族と相談しながら金銭所持・使用の支援を行うようしている。少額を手元に持っておられるご利用者もいる。ご家族よりお金を預かり、事務所で管理しているご利用者には力に応じ、お買い物の際にお財布をお渡ししご自分で支払ってもらったり工夫をしている。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望があれば、ご協力頂けるご家族には電話をかけ、プライバシーに配慮しながらお話しして頂いている。絵手紙の作品や年賀状、暑中見舞いをご家族に送ったりしている。		
		〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	めている。季節感を感じられるおやつや飲み	共用空間は明るく、広く、公園の木々や幼稚園の情景、遠くの家並みなどが眺められる。 窓辺の椅子や食卓、ソファと居場所も多く、クリスマスツリーや作品で季節が感じられ、シクラメン、観葉植物もさりげなく置かれ、家庭的な雰囲気で居心地良く過ごせるような工夫している。	
54		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工 夫をしている	リビング・廊下・談話室・窓際、それぞれに椅子やソファーを設置し、ご利用者の気分や状態に応じて過ごす場所を選べるように配慮している。		
		〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	ご利用者が安心して過ごせるよう、使い慣れた家具や馴染みのある生活用品や装飾品・仏壇・鏡台・テーブルセット等を持ち込んで頂いている。また、各居室に大きな掛け時計を設置し、居室の入り口にご利用者の顔写真とお名前を貼り、居心地の良い居室になるよう工夫している。	居室は広く、嫁入り道具の鏡台、椅子、衣装箱、洋服かけ、仏壇などが持ち込まれ、家族の写真や利用者の作品を飾って居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	居室はご利用者の身体状態に合わせ模様 替えなどを行っている。洗面所の手拭タオルは、お一人お一人に合った場所に置き、ご 自分で取って頂きやすいようにしている。混 乱や失敗を起こされた姿を見た際は、職員間 で報告し合い、話し合いを行い、ご本人の不 安材料を取り除けるように取り組んでいる。ま た、わかる力を活かせるような対策を立てるよ うにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームあっぷる

作成日: 平成 23年 7月 15日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	24	ご利用者との日々の関わりの中で、積極的に 思いや意向の把握に努めるようにしているが、 記録の整理が出来ていない。	ご利用者の思いや意向についても記録の 整理行う。	●ご利用者スタッフに話された事(つぶやき等) を記録する。●入浴時にご利用者一人一人に ゆっくり話をお聞きする時間を作るよう努める。 ●新たに得た情報も記録していく。●嗜好品や 飲み物の温度の好み等すでに把握している事 も個人個人の介護記録に記録する。	6ヶ月
2	25	記録できていない情報が多く、職員間で情報 の把握の程度に差があり、施設でのご利用者 の生活に活かしきれていない。	全職員で情報を共有し、日々の生活がより ご利用者の快に近づくように支援する。	●記録した内容を全職員が把握に努める。● 記録された内容をご利用者の日々の生活に取 り入れ活かしていく。	10ヶ月
3	45	体操がマンネリ化している。	新たな体操等を取り入れ、ご利用者のADLの維持向上を目指す。	●新たな体操をリクリエーションの時間に行う。	10ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。